

与謝野氏入閣の本当の意味

この度、与謝野馨氏が民主党・菅政権に重要閣僚として参画したことは、菅首相が「増税による財政再建路線」に突き進むことを明確に示したことを表している。この路線は、財務省が影のシナリオライターであることは明白で、政治主導を捨て官僚主導に先祖帰りする表明でもある。

民主党が先の総選挙で国民に約束した「税金の無駄遣い、官僚の既得権を排除し、まず財源を生み出すとともに、官僚独裁ともいえる政治体制を抜本的に改める」という趣旨の方針は、事実上、完全撤回されたに等しい。

まさに、民主党の自民党化を象徴的に表しているのが、今回の与謝野氏入閣だ。

与謝野氏は、自民党除名、新政党を経て今は無所属になったが、今でも「ザ・自民党」といえる。官僚と協調し、自民党の政策立案や実行をリードしてきた人物。今回の入閣は、自民・民主という二大政党が国の方向や政策を競い合うというしくみが、遠からず機能不全に陥っていくことを示している。

これまで約20年にわたって、自民・民主に別れて衆院選を戦ってきた東京一区のお二人が、そろって大臣就任。どちらかを選択した国民の意志は全く反映されなくなったと言ってもいい。こんな禁じ手の大転換を図るのであれば、約束した「マニフェスト」を根こそぎ変えるのであれば、解散総選挙で国民に信を問うべきだ。

みんなの党は、こぞって「とにかく増税路線」を明確にした二大政党と対峙し、「増税の前に、まず行革」「政治・行政がまず、自ら痛みを引き受ける改革を断行せよ」という、いわば第三極から第二極に位置したものと自任している。

こんな経済状況で増税が国民の生活にどんな影響を及ぼすのか、想像力さえ働かないのが今の二大政党だ。また、役所のリストラなくして増税を行えば、とめどない歳出拡大に道を開くのは確実だ。

やるべき、やらねばならぬ大改革は山のように積みあがり、民主党政権、古くは自民党政権によって、棚の上の上に上げられてしまっているのだ。

是非とも、多くの国民の皆さんとともに大改革を手掛けたい。多くの皆さんの明確な意志表明によって、みんなの党に推進力を与えて頂きたい。

みんなの党 東京都第一区支部長 小齊 太郎

下弦の三日月を眺めて

(みなさんの思いと私の決意:新年会日誌)

古くから「まち」に暮らし、その地域を守り育てている人たちがいます。町内会や商店会などを担っている人たちです。

そのみなさんは、自由主義(保守)と社会主義(革新)が厳しく対峙している時代、ほぼ例外なく、自由主義を標榜する自民党を支持してきました。それにより、自民党は長年にわたって政権を維持し、政治・行政・地域が連携して発展の礎を築いてきた訳です。大筋で誤りなき選択だったのだと思います。

つまり、選挙では、疑いなく自民党に入れてきた。しかし、冷戦終結、バブル崩壊によって、保革対立も終焉を迎え、日本の進路を模索する長いトンネルに迷い込み今に至ります。その過程で、政治は明確な針路を示し得ず、長年政権を担ってきた自民党の劣化が始まった。本当にこのまま任せていいのか。まちばの人たちの思いが揺れ始めた。

そんな背景で、先の衆議院総選挙において、多くの人が政権交代に望みをかけました。相当なエネルギーをかけ、自己との葛藤を超え、多くの人が支持を翻して民主党に投票した結果が、民主党への政権交代だったのだと思います。

新年会での私の政権批判を含む挨拶は、総じて共感を呼びます。私の話を聞く目は真剣で、突き刺されるようです。

挨拶の後、みなさんの輪に加わり話をすると、政治に対する不安と不満が吹き出てきます。「何とかせよ」「民主党には任せられない」と。でも、だからと言って「簡単には自民党に戻れない」という雰囲気もひしひし伝わります。

(信じ続けた旦那さんだが、変わってしまった姿に打ちひしがれ、断腸の思いで別れて、新しい旦那に期待したんです。でも、新しい旦那、見てくれだけで中身がなかった。一緒になる前の約束も、全く果たすそぶりも見せないんだから。でも、だからと言って、昔の旦那には簡単に戻れませんよ。改心してる感じないし。)こんな声が聞こえてくるようです。

こんな状況で、消去法的選択もあるにせよ、みんなの党への期待を感じます。もっと具体的に政策を示せ、本当にできるのか…、そんな雰囲気を常に感じます。責任は重大です。

みなさんの期待を多くの議席に変えて下されば、必ず改革を成し遂げられることを伝えたい。そして、任を与えられたその時には、命を賭しても実行しなければなりません。

新年会の帰り道、自らの決意を確認しながら、新月を経ていずれ必ず満月になる下弦の三日月を眺めました。

平成23年1月8日〈赤坂9丁目附近にて思う〉

小齊太郎

小齊太郎の略歴

現在、港区議会議員、

みんなの党東京都第一区支部長、国政に挑む。

1970年(昭和45年)1月16日 東京・渋谷区生まれ。

渋谷区立千駄ヶ谷小学校、私立早稲田中学・高等学校を経て、1993年(平成5年)早稲田大学社会科学部卒業。

港区には、1983年(昭和58年)南青山に転入。

都議会議員秘書・代議士秘書として勤務後、

1995年(平成7年)港区議会議員選挙に立候補。最高位当選、以降連続四期。その間、2004年(平成16年)港区長選挙に立候補するも、次点落選のため、三年間の浪人生活を経験。地元の皆さんとともに、消防団活動、町会・商店会活動、青少年地区委員会活動等にも積極参画してきた。

お気軽にメールを → taro@kosaioffice.com

ホームページは → <http://www.kosaioffice.com/>

「twitter」始めました フォローお待ちしております → [taro_kosai](https://twitter.com/taro_kosai)

